

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-35485

(43)公開日 平成5年(1993)5月14日

(51)Int.Cl.⁸

B 6 0 Q 1/44

B 6 2 D 37/02

識別記号

庁内整理番号

8715-3K

F 7816-3D

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-85129

(22)出願日 平成3年(1991)10月18日

(71)出願人 000006286

三菱自動車工業株式会社

東京都港区芝五丁目33番8号

(72)考案者 天野 ▲寛▼司

東京都港区芝五丁目33番8号 三菱自動車
工業株式会社内

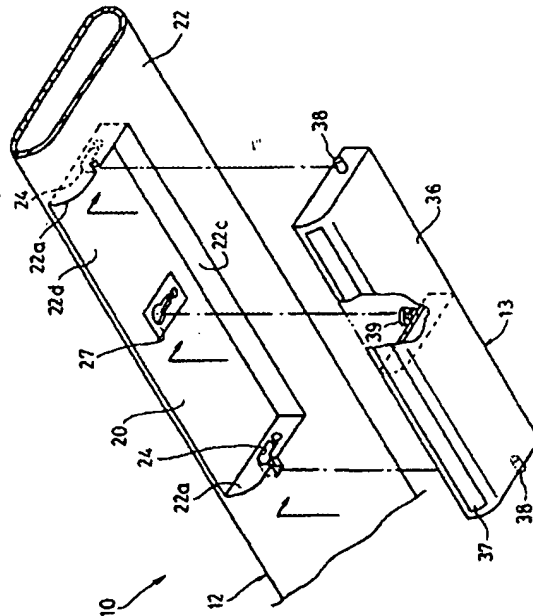
(74)代理人 弁理士 長門 侃二

(54)【考案の名称】 ストップランプ付きリヤスポイラ

(57)【要約】

【目的】 ストップランプ付きリヤスポイラの製造コストを低減すると共に、見栄えを良好にする。

【構成】 スポイラ本体12の凹所20の各側面22aに形成された各ガイド溝24と、上面22dに固着されたインサート27と、ストップランプユニット13の各側壁及び上壁より突出する各円柱体38及びピン39と、各ガイド溝24及びインサート27に形成された各係止部とを備えたリヤスポイラ10である。ランプユニット13を装着する場合に作業者は、各ガイド溝24と各円柱体38、インサート27とピン39をそれぞれ対向させた後、ランプユニット13を凹所20に差し込む。ランプユニット13が装着位置にまで差し込まれると、前記各係止部が各円柱体38及びピン39に係止し、ランプユニット13の脱落を防止する。また、ランプユニット13が、各円柱体38、各ガイド溝24及び各係止部を隠す。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 車体に固定されるスポイラ本体と、スポイラ本体の後部に下面から後縁にわたって連設された凹所と、この凹所に装着されるストップランプユニットとを備えたリヤスポイラにおいて、凹所とストップランプユニットとの互いに向き合う面の一方に設けられ、ストップランプユニットを凹所に差し込む方向に延びる凹状ガイドと、前記互いに向き合う面の他方に設けられ、凹状ガイドに沿って相対移動可能な突出部材と、凹状ガイドに設けられ、ストップランプユニットを装着位置にまで差し込むと突出部材を係止する係止手段とを有することを特徴とするストップランプ付きリヤスポイラ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係るストップランプ付きリヤスポイラを適用した車両の一実施例を示す斜視図である。

【図2】 図1のリヤスポイラの、ストップランプユニットの取付構造を示す分解斜視図である。

【図3】 図2のガイド溝の周辺を示す側面図である。 *

2

* 【図4】 図2のインサートの周辺を示す断面図である。

【図5】 図4の矢線V-Vに沿うインサートの断面図である。

【図6】 従来のストップランプ付きリヤスポイラの、ストップランプユニットの取付構造を示す分解斜視図である。

【符号の説明】

10 ストップランプ付きリヤスポイラ

12 スポイラ本体

13 ストップランプユニット

20 凹所

24 ガイド溝

25 係止部

27 インサート

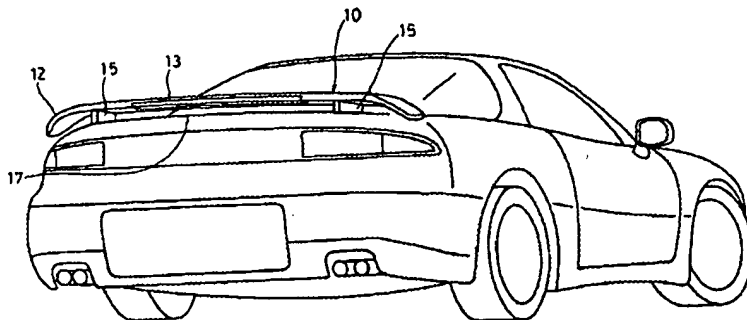
31 大径孔

32 長孔

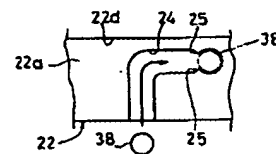
33 係止部

39 ピン

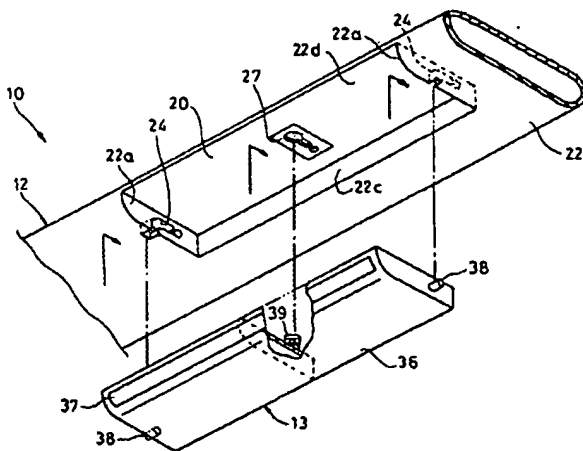
【図1】



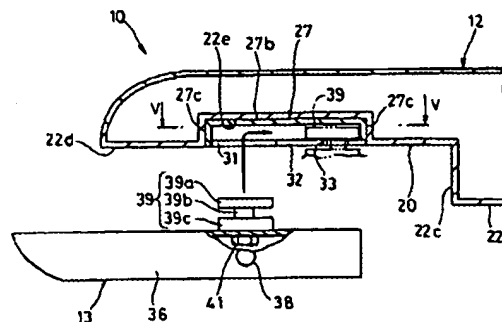
【図3】



【図2】



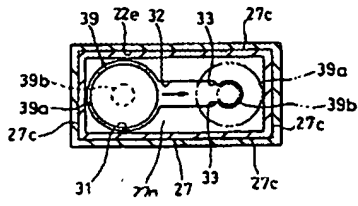
【図4】



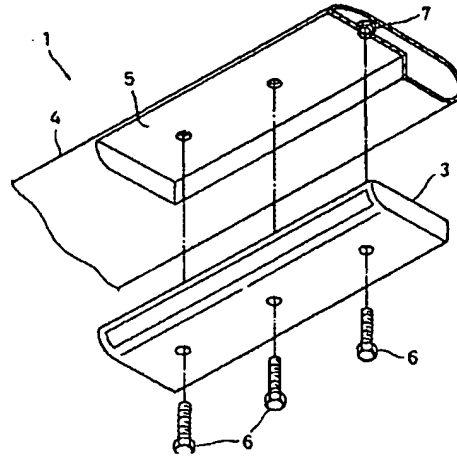
(3)

実開平5-35485

【図5】



【図6】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、車両のストップランプ付きリヤスポイラに関する。

【0002】

【従来の技術】

車両のリヤスポイラにはストップランプを取り付けることがあり、この場合には、後続車からのストップランプの視認性が良好になる。

従来のストップランプ付きリヤスポイラ1においては、図6に示すように、ストップランプユニット3を、スポイラ本体4に形成された凹所5に螺着固定していた。つまり、凹所5にストップランプユニット3を配置して位置決めした後、複数のボルト6をストップランプユニット3の下方より貫通させて、スポイラ本体4の内側に配置された複数のナット7（1個のみ図示）に締め付けていた。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来のリヤスポイラ1においては、ストップランプユニット3をスポイラ本体4に螺着固定しているため、複数のボルト6及びナット7等を必要として構成部品点数が多くなると共に取付作業に手間がかかり、製造コストが増加する。また、ストップランプユニット3の下面に複数のボルト7が露出してしまい、リヤスポイラ1の見栄えを悪化させるとの問題があった。

【0004】

本考案は、上述の問題点を解決するためになされたもので、製造コストを低減することができると共に、見栄えが良好なストップランプ付きリヤスポイラを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために本考案によれば、

車体に固定されるスポイラ本体と、スポイラ本体の後部に下面から後縁にわたって連設された凹所と、この凹所に装着されるストップランプユニットとを備え

たリヤスポイラにおいて、

凹所とストップランプユニットとの互いに向き合う面の一方に設けられ、ストップランプユニットを凹所に差し込む方向に延びる凹状ガイドと、前記互いに向き合う面の他方に設けられ、凹状ガイドに沿って相対移動可能な突出部材と、凹状ガイドに設けられ、ストップランプユニットを装着位置にまで差し込むと突出部材に係止する係止手段とを有する構成にしたものである。

【0006】

【作用】

スポイラ本体の凹所にストップランプユニットを装着する場合、作業者は、先ず突出部材と凹状ガイドとを対向させてストップランプユニットを凹所に差し込む。突出部材と凹状ガイドは相対的に移動し、ストップランプユニットを案内する。突出部材が装着位置にまで差し込まれると、係止部材がこの突出部材に係止する。これにより、ストップランプユニットは、スポイラ本体からの脱落を防止される。

【0007】

また、突出部材、凹状ガイド及び係止部材は、装着されたストップランプユニットの内方に隠れる。

【0008】

【実施例】

以下、本考案の一実施例を添付図面に基づいて詳述する。

図1は、本考案に係るストップランプ付きリヤスポイラを適用した車両を示している。ストップランプ付きリヤスポイラ（以下、単にリヤスポイラと記す）10は、スポイラ本体12及びストップランプユニット13等より構成されている。

【0009】

スポイラ本体12は、ステー15、15を介してトランクリッド17の後端縁近傍位置に固定されている。このスポイラ本体12には、図2に示すように、凹所20が形成されている。

凹所20は、スポイラ本体12の後部の長手方向中央位置に、下面から後縁に

わたって連設されている。つまり、スポイラ本体12のロアプレート22を上方に窪ませるようにして設けられた、上下方向に延びる各側面22a、22a及び前面22cと、水平に延びる上面22dとで凹所20を形成している。この凹所20は、ストップランプユニット13と略同じ大きさに設定されている。

【0010】

各側面22aには、L字状に延びるガイド溝（凹状ガイド）24が設けられている。詳述すると、各ガイド溝24は、図3に示すように、ロアプレート22の下面より上方に向けて所定長だけ延びた後、車両前方に向けて所定長だけ水平に延びている。各ガイド溝24の幅は、後述する円柱体38の直径と略同じ長さに設定されている。

【0011】

そして、各ガイド溝24の先端近傍位置には、上下両側より膨出する係止部25が、ガイド溝24の幅を縮めるようにして形成されている。この係止部25は、図3中2点鎖線で示す位置にまで移動した円柱体38を係止することができる。

また、図4に示すように、上面22dの略中央には、窪み22eが形成されている。この窪み22eは、平面視形状が矩形状をなしている。そして、この窪み22eには、箱状のインサート27が固着されている。

【0012】

インサート27は、矩形状の上板27bと、この上板27bの周縁より垂下する4枚の側板27cと、各側板27cの下端縁より水平に延びる下板27aより構成され、これらは一体に成形されている。上板27b及び各側板27cは、窪み22eに固着されている。また、下板27aは、前記上面22dと同じ高さに配置され、同一平面となっている。

【0013】

インサート27の下板27aには、大径孔31及び長孔32が穿設されている。大径孔31は、下板27aの車両後方の位置に設けられ、後述するピン39の大径部39aの直径よりも若干大径に設定されている。また、長孔32は、大径孔31に連続して形成され、車両前方に向けて延びている。長孔32の幅は、ピ

ン39の小径部39bの直径よりも若干大径に設定されている。

【0014】

この長孔32の先端近傍位置には、両側より膨出する係止部33が、長孔32の幅を縮めるようにして形成されている。この係止部33は、図4及び図5中2点鎖線で示す位置にまで移動したピン39の小径部39bを係止することができる。

なお、凹所20を形成する前面22cには、ランプユニット13へと延びるハーネスを通すための孔（共に図示せず）が穿設されている。

【0015】

ストップランプユニット（以下、単にランプユニットと記す）13は、車幅方向に細長いハウジング36と、ハウジング36の後壁に取り付けられ、長手方向に延びるストップランプ37と、ハウジング36の両側壁にそれぞれ設けられた円柱体38、38と、ハウジング36の上壁に螺着固定されたピン39等より構成されている。

【0016】

ストップランプ37は、車両の運転席に配設されたブレーキペダル（図示せず）を、運転者が踏込操作した場合に赤色に発光する。

各円柱体38は、前記各ガイド溝24に対応する位置に設けられている。各円柱体38は、各ガイド溝24に案内されて図3中2点鎖線位置まで移動する。

ピン39は、前記インサート27に対応する位置に設けられている。このピン39は、ハウジング36にボルト41で螺着固定されたベース部39cと、このベース部39cより上方に延びる小径部39bと、小径部39bの上端に配置された大径部39aより構成され、これらは一体に成形されている。

【0017】

大径部39aの直径は、前述したように、インサート27に穿設された大径孔31よりも若干小径に、且つ、長孔32の幅よりも大径に設定されている。また、小径部39bの直径は、前述したように、長孔32の幅よりも小径に設定されている。さらに、小径部39bの長さは、インサート27の下板27aの厚さよりも若干長く設定されている。

【0018】

このランプユニット13は、以下のようにして、スポイラ本体12の凹所20に装着される。

作業者は、先ず、ランプユニット13を凹所20にまで持ち上げ、各円柱体38を各ガイド溝24に、ピン39をインサート27にそれぞれ対向させる。そして、作業者は、ランプユニット13を上方に移動させ、各円柱体38を各ガイド溝24に、ピン39の大径部39aをインサート27の大径孔31にそれぞれ挿入させる。大径部39aが大径孔31を抜けてインサート27の下板27aの上方にまで移動すると、各円柱体39は、各ガイド溝24に沿って車両前方に移動できるようになる。

【0019】

そして、作業者は、ランプユニット13を車両前方に移動させる。各円柱体39は各ガイド溝24に沿って、また、ピン39の小径部39bは下板27aの長孔32に沿って移動する。

各円柱体39が、係止部25を越えて図3に2点鎖線で示す装着位置にまで移動すると、係止部25は各円柱体39をこの位置に係止して脱落を防止する。また、ピン39の小径部39bが、係止部33を越えて図4及び図5に2点鎖線で示す装着位置にまで移動すると、係止部33は小径部39bをこの位置に係止して脱落を防止する。これにより、作業者は、ランプユニット13を凹所20に取り付けることができる。

【0020】

ランプユニット13が凹所20に取り付けられると、各円柱体38、ピン39、ガイド溝24及びインサート27は、ランプユニット13の内方に隠れる。

【0021】

【考案の効果】

以上説明したように本考案によれば、スポイラ本体の凹所とストップランプユニットとの互いに向き合う面の一方に凹状ガイドを、他方に突出部材をそれぞれ設けると共に、凹状ガイドに突出部材に係止する係止部を設けてストップランプ付きリヤスポイラを構成した。このため、構成部品数が減少すると共に、取付作

業が容易になり、製造コストを低減することができる。また、凹状ガイド、突出部材及び係止部をランプユニットで隠すことができ、リヤスボイラの見栄えが良くなる等の優れた効果がある。